

発行 原爆慰霊碑を正す会

【広島本部】
〒731-0113 広島市安佐南区西原 1-9-4
TEL/FAX 082(836)6561

【東京本部】
〒102-0071 東京都千代田区富士見 1-2-11
河田フラッツ 302号
TEL/FAX 03(5213)5250
<http://tadasukai.web.fc2.com/>

発行人：小川勝正
編集人：荒岩宏奨
◎メールアドレス◎
tadasukai86@gmail.com
郵便振替 00100-1-514219



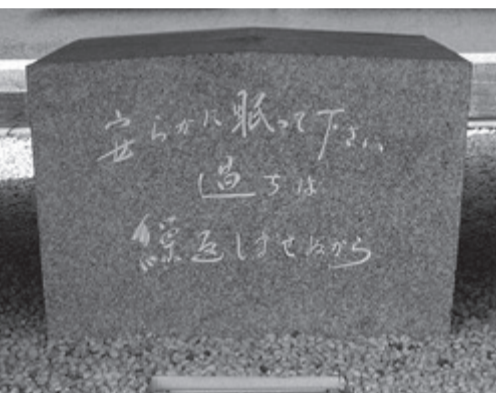
原爆投下という「過ち」を犯したのはアメリカである。原爆慰霊碑の碑文が「過ち」だ！

核兵器廃絶のための時限核武装論！

—昭和天皇のご意向で中止になった日本の原爆開発—

大東亜戦争終結から七十年

今年は大東亜戦争終結から七十年という節目の年である。それは、広島と長崎に原子爆弾が投下されてから七十年が経過したということでもある。国会では衆議院において安全保障関連法案が可決し、いよいよ成立しようとしている。この法案の是非はここでは述べないが、戦後七十年という節目の年にこの法案が可決し成立しようとしている今、私たち日本国民は戦争と平和について考える必要があるだろう。さらに、安全保障関連法案が成立すれば、必然的にわが国は核武装すべきか否かを議論せざるをえなくなるのではないだろうか。



原爆犠牲者を冒瀆する原爆慰霊碑の碑文

法案に反対する勢力はこの法案を「戦争法案」と呼び、賛同する勢力はそれに対抗するよう「戦争抑止法案」と呼んでいる。日本国民は今、戦争する覚悟があるだろうか。

問われているのだ。

七十年前の戦争を顧みたとき、欠かすことのできない大きな出来事の一つは何と言っても原子爆弾の投下である。アメリカ合衆国はトルーマン大統領の命令によって、広島と長崎に原子爆弾を投下し、多くの一般人を虐殺した。まさに人類史上最大の野蛮な虐殺行為であった。しかし、その人類史上最大の野蛮な虐殺行為である原爆投下をアメリカは謝罪していない。それどころか、原爆投下は必要だったという見解を示しているのである。今でもアメリカ国民の半数以上は原爆投下は必要だったという認識を持っている。

一方、原爆の被害を受けたわが国はどうか。広島平和記念公園には「過ちは繰り返しませんから」という碑が建立されている。これではまるで日本が原爆投下という過ちを犯したかのような碑文である。そして、毎年八月六日にはその碑の前で式典が開催されている。過ちを犯したアメリカは原爆投下を正当化し、原爆の被害を受けた日本が反省しているという不思議な現象である。

昭和天皇のご意向により原爆開発を中止

戦時中、実はわが国も原爆の開発を行っていた。ところが、それを告知しなされた昭和天皇は、開発を中止するように強くお叱りになっておられる。幣会（幣見会）は昭和四十五年二月十一日に岩田幸雄を世話人代表として幣会した。その岩田は戦時中、上海で軍部の用を務めていた。昭和二十年二月、海軍航空本部嘱託であった岩田は杉山陸軍大臣私邸に招かれて、次のような言葉を聞いたという。

『岩田君、君は軍籍のない民間人であるにも拘らず、この戦争では日本軍のため挺身して偉大な貢献をして呉れ心から感謝している。その苦勞に報いるためにも、一日も早く新兵器（原子爆弾）を開発し、劣勢を挽回すべく懸命の努力をしていたが、事情があつて残念ながら新兵器製造は中止した、実は御上（天皇）から強いお叱りを受けたのだ。君の提出して呉れた秘録映画から、各国が新兵器開発に血眼になっている様子がよく判り、自分としては猶予は赦されず、製造を急がせていた。そして完成すれば最初ハワイに落とし、その威力を示し、戦況を日本軍有利に導く計画であった。わが日本軍がウランを入手し、新兵器開発が今まさに現実のものとなった段階で、東条首相がその旨天皇陛下に奏上した。戦局は極めて困難な状況にあり、起死回生の決定だとして、天皇にお喜びいただけると思つて申し上げたのだが意外に強い口調で反対された。その理由として、『数カ国が新兵器開発を競っていることだが、日本が最初に完成し使用すれば、他国も全力を傾注して完成させ使用するだろうから、全人類を滅亡させることになる。』

それでは人類絶滅の悪の宗家に日本がなるではないか、またハワイに投下する計画とのことだが、ハワイには、日本の同胞が多数移住し、現地アメリカ人と共に苦勞し、今日を築きあげたところだ。そのような場所に新兵器を使用することには賛成できない。』と申された。

東条首相は、天皇陛下の御意思に反することは出来ないといふことであつたが、自分としては敗戦となれば日本が滅びてしまひ、全てを無くすと考え、製造促進を主張し意見が衝突した。『参謀総長の立場に在る者として日本を敗戦に導くことは出来ない。戦争とは結果に於て勝利を得ることが肝要であり、今の日

原爆犠牲者を冒瀆し、日本に罪を押しつける「原爆慰霊碑」の碑文を改正しよう！



岩田幸雄

本は手段を云々できる時ではない。勝てば天皇にお喜び頂けるに違いない、そして天皇が希求される世界平和を実現出来るではないか。」

と東条首相を説得したが、同意が得られず、私は昭和十九年(二九四四年)二月、参謀総長の座を東条に譲り野に下った。

しかし、同年七月東条内閣が総辞職する事態となり、小磯内閣が誕生し、自分は再び陸軍大臣として入閣したので、飽く迄自分の責任に於て、秘密裡に新兵器開発を急がせていた。ところが、新兵器を積むロケットの燃料製造過程で誤爆事件が突発し、再度天皇陛下の知られるところとなった。

天皇陛下に呼ばれた私は、『まだやっていたのか!』と強く叱責され、誠に面目なく、これ以上開発を進めることは出来なくなった。

私は、日本が勝っても負けても此の責任はとる覚悟だ。例え勝てたとしても天皇陛下の大御心を煩わせた罪は万死に値いする。更に多くの部下を死に至らしめた責任から逃れることはできない。

此処で話した事は誰にも話さないで呉れ給え。此の事を知っている者は天皇陛下と東条と自分だ。何にしてもその時が来れば自決してお詫びする覚悟だ。』(出雲井晶編『昭和天皇』)

このように、わが国も杉山陸軍大臣のもとで核兵器開発を行っていたのである。しかし、昭和天皇の強いご意向により中止となっていた。それも二度も。「過ち」を犯すことは、昭和天皇がお許しにならなかつたのである。

原爆投下を反省すべきは日本ではなくアメリカであることは明白である。

このように日本が自虐的になつてしまつたのは、やはりGHQによる占領政策の影響である。占領中、GHQは日本に言論の自由を与えたとしながら、実際にはGHQやアメリカの批判は一切禁止し、検閲などで言論弾圧を行つていた。当時は原爆投下を批判することは許されなかつたのである。東京裁判において、原爆投下を命じたアメリカ大統領の罪を問うたことがあるが、その言葉は通訳されず、筆記録にも残されることはなかつた。原爆慰霊碑は、そのような言論弾圧が行われている占領中に建立された碑であるという経緯を私たちは知っておく必要がある。

核兵器廃絶のための核武装!

岩田幸雄は林房雄の小説『武器なき海賊』のモデルとなった人物で、波乱万丈の人生を送つた。上海で終戦を迎えた岩田は、中国人になりすまして蘇州へと逃げ、そこで昔世話をした中国人から海賊になることを勧められた。そして、南シナ海を荒らす海賊に対抗する義勇軍の団長になるのだが、やはりそれも海賊の一種のようなものだったようだ。そして、ふとしたことから兪山島という美しい島をもらうことになり、そこで農場の開発を手がけることになった。また、貿易も始めた。貿易といつても密貿易であり、やはり海賊のようなものだったという。このよう

な生活を行つていくうちに、岩田は次のような結論にたどりつくことになった。

『何度か命を失うような目に会ううち、彼は次のような信念に到達する。

「武器を持つておれば、人を襲いたくなる。……武器というものは、人を殺すよりも、自分を殺すことに役立つ場合が多い。……国の場合も、個人の場合も同じことです」

で、これからは武器にたよるまい、武器を捨てよう、と決心し、「感傷的で空想的で、理屈にはあつていないかもしれぬが、一種の信仰

のような」武器なき海賊に転身する。無抵抗主義、「私は最後まで、それを実行しました」(白洲正子『心に残る人々』)

終戦後、海賊をしていた岩田幸雄は「武器なき海賊に転身」したのである。もしかしたら、昭和二十年二月に杉山陸軍大臣から聞いていた昭和天皇のお言葉が岩田の脳裏に浮かんでいたのかもしれない。幣会は、無抵抗主義というわけにはいかないが、原爆開発中止のご意向を示された昭和天皇の大御心、そして武器なき海賊となつた岩田の精神を大事にしていきたいと考えている。すなわち、核兵器なき世の中を望むものである。

しかし、これまでに広島市がいくら「核兵器廃絶!」と訴えても、国際社会にはその声は届かず、核保有国は増加しているのが現実である。また、国際社会では核拡散防止条約が締結されているが、これは現在の核保有国に有利な条約であり、とても公平な条約とは言えない。

そこで幣会は、日本は一度核武装すべきだと提案する。しかしそれは、現在の安保関連法案に賛同する勢力の言うような「抑止力」としての武装ではない。核武装による力の均衡によって、核攻撃を抑止しようというわけではない。もちろん、どこかの国を攻撃する

ための核武装でもない。では何のための核武装なのか。それは核兵器廃絶のための核武装である。核兵器なき世の中にするための核武装なのである。

わが国が核兵器を開発し、国際社会に核保有を宣言する。そしてある期間が過ぎれば「核廃絶宣言」をして国内の全核兵器を廃絶する。核兵器の縮小はアメリカとソ連の間で行われたことがあるが、核兵器廃絶はまだどの国も行っていない。時限的に核兵器を保有して、次にそれを廃絶するという、核兵器廃絶のための時限核武装論である。世界で唯一の被爆国であるわが国が時限核武装を行い、そして核兵器を廃絶することは国際社会に大きなインパクトを与えることになるのではないだろうか。少なくとも、現在の核保有国の偽りの「正義」や「大義名分」は崩壊することになる。

幣会は、原爆で虐殺された犠牲者を冒瀆する碑文の改正、または碑の撤去を広島市に要求している。それは言論弾圧で隠蔽されたアメリカの罪を明確にすることでもあり、広島・長崎への原爆投下は悪であるという証明にもなる。真の平和への第一歩につながるはずである。そして、その達成のために、多くの皆さんのご協力を求めるものである。

幣会は、原爆で虐殺された犠牲者を冒瀆する碑文の改正、または碑の撤去を広島市に要求している。それは言論弾圧で隠蔽されたアメリカの罪を明確にすることでもあり、広島・長崎への原爆投下は悪であるという証明にもなる。真の平和への第一歩につながるはずである。そして、その達成のために、多くの皆さんのご協力を求めるものである。

幣会は、原爆で虐殺された犠牲者を冒瀆する碑文の改正、または碑の撤去を広島市に要求している。それは言論弾圧で隠蔽されたアメリカの罪を明確にすることでもあり、広島・長崎への原爆投下は悪であるという証明にもなる。真の平和への第一歩につながるはずである。そして、その達成のために、多くの皆さんのご協力を求めるものである。

幣会は、原爆で虐殺された犠牲者を冒瀆する碑文の改正、または碑の撤去を広島市に要求している。それは言論弾圧で隠蔽されたアメリカの罪を明確にすることでもあり、広島・長崎への原爆投下は悪であるという証明にもなる。真の平和への第一歩につながるはずである。そして、その達成のために、多くの皆さんのご協力を求めるものである。

幣会は、原爆で虐殺された犠牲者を冒瀆する碑文の改正、または碑の撤去を広島市に要求している。それは言論弾圧で隠蔽されたアメリカの罪を明確にすることでもあり、広島・長崎への原爆投下は悪であるという証明にもなる。真の平和への第一歩につながるはずである。そして、その達成のために、多くの皆さんのご協力を求めるものである。

幣会は、原爆で虐殺された犠牲者を冒瀆する碑文の改正、または碑の撤去を広島市に要求している。それは言論弾圧で隠蔽されたアメリカの罪を明確にすることでもあり、広島・長崎への原爆投下は悪であるという証明にもなる。真の平和への第一歩につながるはずである。そして、その達成のために、多くの皆さんのご協力を求めるものである。